

令和元(2019)年「宝石山正覚寺報」8月号

ご案内

お聴聞は、如来様の促しに遇いお念仏しつつ終にお喚び声に遇わせて戴く大切な営みです。

皆様どうぞご縁におあい下さいませ。

仏壮お聴聞の会 8月4日(日)20時～。

仏教壮年会恒例となったお聴聞の会です。皆様賑やかにご縁にお会い下さい。

正覚寺歡喜会(かんぎえ) 8月25日(日)10時

(お客僧)柱本 惇師(京都教区明覚寺)、

八月の仏婦例会は、歡喜会に合同して営みます。お客僧には内陣出勤から御世話に与ることになりました。お客僧には、一昨年の花祭りで「ともしえ」を演じて戴きました。ご母上ご住職「めぐみ師」は、著名なソプラノ歌手でいらっしやいます。

滋賀組親鸞聖人讃仰特別布教

8月24日(土)9時20分受付 (会所)龍光寺

(布教1)青木 了慈師(大津組西念寺)

(布教2)釈迦 裕史師(高島組浄願寺)

「のんのさま」がお寺から独り立ちした瞬間

世界の子供が遊ぶ虹の橋を謳い上げた「のんのさま」に「南無阿弥陀佛」版の二番を補作詞して仏教讃歌らしさを実現したのが正覚寺で歌い込んできた「のんのさま補作詞版」です。

七月初旬驚くべきことが起こりました。教区第三班の聖跡巡拝バス旅行でこれをバスの中でCDで練習し、夜の懇親会の場でご参加の皆様全員で歌って戴いたとのです。

たった一回限りのお粗末な歌唱によるご紹介だったのに、お気に入り戴いた会長さんの感性の鋭さに驚き、早速それを取り込んだ企画を思い立たれた三役の皆様のおいきりの良さに住職は感服しないではおれませんでした。お寺から「のんのさま」が独り立ちした瞬間でした。

補作詞版の二番は次のような歌詞です。

二、なもあみだぶつ	なもあみだ
なもあみだぶと	となえませ
なもあみだぶと	たたえませ
なもあみだぶと	きかしゃんせ
なもあみだぶつ	なもあみだ
なもあみだぶと	はかりませ
なもあみだぶと	たのまんせ
なもあみだぶと	めざめませ
ななつのうみに	はしかけて
世界につなごう	みだのはし
はしははしでも	ろくじばし
みだのじょうどに	わたるはし

「となえませ」とは、「さあ、称えてごらん」と称名念仏をお勧め下さる如来様のお心を表わしています。(Ref:「発願廻向釈」(註釈版聖典 P170)。

「たたえませ」とは、「お名号のお徳をお讃えなさいませよ」という意味であります。

衆生にお名号の功徳を「お讃えする」力はありませんが、如来様から本願力回向されたお念仏ならば、それをお称えすることがそのまま「まことよのうまことまこと」とお名号のお徳を讃仰することになるのであります。第十七願のお心であります。(Ref:『尊号真像銘文第八条』註釈版聖典 P655)。

「きかしゃんせ」とは、「お聞きになって下さいませよ」という意味であります。北原白秋の柳河風俗詩にその用例があります。

聞くとは何を聞くのか、お念仏を称えれば直ちに聞こえて下さるものがあります。南無阿弥陀佛と称えれば、南無阿弥陀佛と聞こえて下さる。如来様から頂戴したお念仏をお称えしたのですから、直ちに聞こえて下さったものこそは、如来様そのお方の本願招喚の勅命に他ならなかったのであります。(Ref:「帰命釈」(註釈版聖典 P170)。合掌。